

|      |                        |            |    |
|------|------------------------|------------|----|
| 活動分野 | 森に親しむ野外講座              |            |    |
| タイトル | 三轟山 東山道古道とカタクリの小径の散策   |            |    |
| 実施日時 | 平成30年3月27日（火）8時30分～16時 |            |    |
| 実施場所 | 栃木県佐野市                 |            |    |
| 受講者  | 46名                    | FIC会員他スタッフ | 7名 |

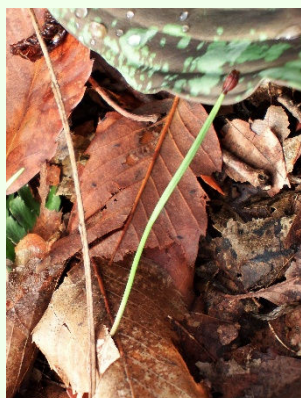
## 活動の内容

朝から爽やかに晴れ上がり、集合時刻8:30にもかかわらず、8時前から参加者が続々と集まってきました。8:20には、全員集合し、すぐに出発となりました。みかも（三轟）山公園には、予定通り10時着、すぐに準備体操を済ませ、そこそこにスタート。歩行距離は、約3.3km、累積登りは280mという比較的短距離のコースでしたので、じっくりとカタクリの“生き様”を観察しましょうという企画としました。行きがけのバス車中で、カタクリの成長と開花・種子散布の方式等を簡単にまとめた資料で説明、一番のポイントは実生から生えた初年度の「ツノ芽」を発見することでした。下見の際には、たくさん発見できたのですが、本番の時には、なかなか発見できず焦りましたが、スタッフの一人が発見、皆でじっくりと観察することができました。昼食後は、第二の目的、東山道の古道と思しき、尾根道歩きです。防人として召し出された若者が、はるか九州の地を目指して、残した家族のことなどを思いつつ、“必ず生きて戻って来るぞ”という覚悟で歩いたであろう道筋を歩きました。途中、コナラの新葉をさがし、ヤマウグイスカグラの花冠に毛があることを確認、リョウブの仮軸分枝の枝ぶりを観察したり、楽しい尾根道歩きとなりました。最後の湿性植物園では、ザゼンソウの群落があり、雄蕊からこぼれ落ちた花粉が仏炎苞の底に積もっている状態などを観察、無事帰路に着くことができました。

以上



班別に参加者の確認後、カタクリの里目指して、出発。



左：「ツノ芽」発見、頭に帽子をかぶったまま。よく見ると、枯れ葉を突き破って伸びだしている。したたかな「生き様」である。

右：ザゼンソウ 花粉が、仏炎苞の底に積もっています。

